

## エアアジア (AIRA)

### 旅客数は前年同期比 12%増、需要の伸びを受け運航能力の強化へ

マレーシア | 航空 | 業績フォロー

BLOOMBERG AIRA | REUTERS AIRA.KL

- 2017/12 期 3Q (7-9 月) は、売上高が前年同期比 14.8%増の 24.47 億 MYR、営業利益が同 6.6%減の 4.94 億 MYR、純利益が同 29.6%増の 4.34 億 MYR となった。
- 東南アジアの中規模な都市間を結ぶ便の就航などにより旅客数が増加したほか、価格改定を行ったことで付帯サービス収入が伸びた。
- 2017/12 通期の市場予想は、売上高が前年同期比 23.7%増の 84.74 億 MYR、営業利益が 12.5%増の 18.29 億 MYR、当期利益が 20.0%減の 16.40 億 MYR である。

#### What is the news?

インドネシア、フィリピンの事業を含むグループの 2017/12 期 3Q (7-9 月) は、売上高が前年同期比 14.8%増の 24.47 億 MYR、営業利益が同 6.6%減の 4.94 億 MYR、純利益が同 29.6%増の 4.34 億 MYR となった。ベトナム東部やカンボジアとマレーシアを結ぶ直行便の就航や、マレーシアの中都市を結ぶ便を増やしたことなどにより旅客数が増加。また、有料付帯サービスの価格設定の引き上げや税負担の軽減なども寄与した。旅客数は前年同期比 12.0%増の 9.89 億人、平均旅客運賃は、ハリラヤ・プアサの祭典期間の変更に伴い、同 2.3%下落し 172MYR となった。旅客輸送力が同 14%増の 1,140 万人と増加したことで有償座席利用率は同 1ポイント低下し 87%。チェックイン手荷物などの有料付帯サービスの価格設定の改定を行ったことにより、1人当たり付帯サービスは同 8%増の 48MYR、付帯サービス収入は同 23%増の 4.87 億 MYR となった。

非連結子会社では、タイ・エアアジアは売上高が前年同期比 7.2%増の 87.50THB、純利益が同 20.6%減の 4.72THB となった。旅客数は同 14.0%増の 493 万人、平均旅客運賃は 7%下落し 1,460THB であった。エアアジア・インドネシアは、売上高が同 2.3 倍の 39.50 億 INR、純利益が前年同期の▲6.21INR から赤字幅が縮小し、▲1.64 億 INR となった。旅客数は同 99%増の 117 万人、平均旅客運賃は同 18%上昇し 3,024INR であった。

#### How do we view this?

同社は、アジアにおけるローコストキャリアの需要は堅調に増加していくと見ており、積極的な運航能力の強化を計画している。今後 10 年間は毎年約 30 機の航空機を調達し、2027 年までに総計 500 機まで拡大する計画だ。また、同社はデータ活用やデジタル化にも重点を置いており、Wechat Pay、Payoo、Apple Pay 等の導入による決済手段のデジタル化や、予測行動モデルに基づきパーソナライズ化されたサービス提供の試験なども行っていく。2017/12 通期の市場予想は、売上高が前年同期比 23.7%増の 84.74 億 MYR、営業利益が 12.5%増の 18.29 億 MYR、当期利益が 20.0%減の 16.40 億 MYR である。

#### 業績推移

※参考レート 1MYR=27.78円

事業年度	2014/12	2015/12	2016/12	2017/12F	2018/12E
売上高 (百万MYR)	5,415	6,297	6,846	8,474	9,187
純利益 (百万MYR)	82	541	2,046	1,640	1,419
EPS (MYR)	0.03	0.19	0.73	0.46	0.40
PER (倍)	110.33	17.42	4.53	7.20	8.28
BPS (MYR)	1.64	1.60	2.38	2.54	2.82
PBR (倍)	2.02	2.07	1.39	1.30	1.17
配当 (MYR)	0.03	0.04	0.12	0.14	0.10
配当利回り (%)	0.91%	1.21%	3.63%	4.23%	3.02%

(出所: 会社公表資料、Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

配当予想 (MYR)	0.14	(予想はBloomberg)
終値 (MYR)	3.31	2017/12/22

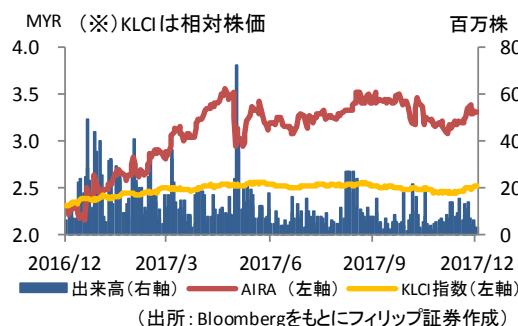
#### 会社概要

2001年に創立。マレーシア、タイおよびインドネシアを中心に運航する。CEOは音楽業界から転じたトニー・フェルナンデス氏。同氏は斬新で多様なサービスを提供。旅券等のオンライン販売、セルフ・チェックイン、駐機時間短縮(約25分)、無料広告(フェイスブックなど)の活用、航空機大量発注(エアバスA320s)などによりコスト競争力は業界トップクラス。

エアアジアグループ(マレーシア、インドネシア、フィリピン等)のほか、タイ・エアアジア、エアアジア・インドネシア、エアアジア・ジャパン、エアアジアXなどを展開している。エアアジアは、2017年も2009年以来、英国の航空サービスリサーチ会社・スカイトラックスによるベスト・ローコスト・エアラインに9年連続で選ばれている。エアアジアは、222を超える路線に就航し、マレーシア、タイ、インドネシア、フィリピン、インドにおけるハブ空港は20を数え110超の空港を結んでいる。

#### 企業データ (2017/12/26)

ベータ値	1.09
時価総額 (百万MYR)	11,095
企業価値=EV (百万MYR)	16,261
3か月平均売買代金 (百万MYR)	22.94



#### 主要株主 (2017/12)

株主名	(%)
1.Tune Live SDN BHD	16.73
2.Tune Air SDN BHD	15.45
3.JPMorgan Chase & CO	5.00

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

#### アナリスト

増淵 透吾  
togo.masubuchi@phillip.co.jp  
+81 3 3666 0707

庵原 浩樹  
+81 3 3666 6980  
hiroki.ihara@phillip.co.jp

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: フィリップ証券 リサーチ部 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員 庵原浩樹  
公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員補 増淵 透吾

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく告知事項>  
本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。